

筑波研究学園都市記者会 御中

筑波大学

平成 18 年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)  
の選定について

このたび、文部科学省の平成 18 年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」において、筑波大学から 2 件のプログラムが選定されましたので、お知らせします。

記

〔選定プログラム〕

- 1 テーマ 2 : 「地域活性化への貢献 (広域型)」  
取組名称 : 「地域ヘルスプロモーションプログラム - 住民に対する予防・健康教育を担える医師養成のための体系的な教育プログラム-」(別紙 1)
- 2 テーマ 5 : 「実践的総合キャリア教育の推進」  
取組名称 : 「専門教育と融合した全学生へのキャリア支援 - キャリアポートフォリオと人的ネットワークの活用-」(別紙 2)

※ 選定されたプログラムの概要は別紙のとおり

〔本件に関する問合せ先〕

- 1 「地域ヘルスプロモーションプログラム」  
人間総合科学研究科 助教授 前野 哲博 (まえの てつひろ)  
医学教育企画評価室 電話 029-853-3002
- 2 「専門教育と融合した全学生へのキャリア支援」  
数理物質科学研究科 助教授 南 就将 (みなみ なりあき)  
電話 029-853-4296

〔プレス発表・取材に関する窓口〕

国立大学法人 筑波大学 総務・企画部 広報課 広報・報道  
専門職員 和田 雅裕 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1  
Tel: 029-853-2040 (ダイヤルイン) Fax: 029-853-2014

## 「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP) 事業について

## ○ 「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP) の趣旨・概要

「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」は、各審議会からの提言等を踏まえ、社会的要請の強い政策課題(地域活性化への貢献、知的財産関連教育など)に対応した大学、短期大学、高等専門学校における取組を選定・支援するとともに広く社会に情報提供するもので、平成16年度から実施。

## ○ 平成18年度の公募テーマ

- 1 地域活性化への貢献(地元型)
- 2 地域活性化への貢献(広域型)
- 3 知的財産関連教育の推進
- 4 持続可能な社会につながる環境教育の推進
- 5 実践的総合キャリア教育の推進
- 6 ニーズに基づく人材育成を目指した e-Learning Program の開発

## ○ 予算額(平成18年度) 46億円

## ○ 申請・選定状況(平成18年度) (件)

区分	テーマ1	テーマ2	テーマ3	テーマ4	テーマ5	テーマ6	合計
申請件数 (うち筑波大分)	123 (0)	94 (1)	25 (0)	76 (0)	176 (1)	71 (1)	565 (3)
選定件数 (うち筑波大分)	27 (0)	20 (1)	5 (0)	14 (0)	33 (1)	13 (0)	112 (2)

【平成17年度は、509件の申請があり、84件が選定されました。

うち、筑波大学では1件(地域活性化への貢献(地元型))が選定されています。】

※申請・選定件数は単独・共同申請の合計

## ○ 財政支援期間 2～3年間

## ○ 事業規模等：

取組規模(補助対象経費)は、2千万円～4千万円を上限。

申請は、各大学3件まで可能。(単独・共同申請での取組みを問わず)

平成18年度 「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代 GP)  
「地域活性化への貢献(広域型)」

### 取組名称「地域ヘルスプロモーションプログラム」

#### (背景)

- 高齢化などを背景に疾患構造が大きく変化し、医師には、病気の治療だけではなく、地域住民が健康的な生活習慣を確立し、予防についての正しい知識を持ってもらう健康教育を行う役割が求められている。しかしながら、これまでの医学教育は、病気についての学習が中心で、実習も大学病院が中心であったため、十分な教育が行われていないのが現状であった。

#### (コンセプト)

- そこで、筑波大学医学専門学群では、地域ヘルスプロモーションプログラムを導入する。本取組は、医学生が自ら地域に出かけ、直接住民・生徒に対して健康教育を行うもので、茨城県の全面的なバックアップを受けて実施される。その結果、将来保健・医療の分野で、地域活性化に貢献できる人材を数多く養成できることが期待される。

#### (内容)

- 1～3年次に十分な準備教育を行った後、3年次に学生が地域での健康教育に参加して一定の役割を担う実習を行う。実習に先だって、学生は1週間の健康教室企画演習において、自分が担当する健康教育の準備を行う。この演習は、地域で地域保健・医療の第一線で健康予防教育を実践している医療者である地域コーディネーターの指導のもとで行われる。
- 5年次には、4週間必修の地域医療実習の中で、地域住民のニーズにあわせた健康指導を行う。
- さらに、ヘルスケアアドバイザー認定制度を導入し、実習後も学生が地域における健康教育のボランティア活動を継続的に実践できるように配慮する。

#### (有効性・発展性)

- 地域医療における人材不足は、現場を直接見て、ロールモデルに触れる機会が少ないために、その魅力ややりがい伝わらないことが原因の一つに挙げられている。本取組は大学での講義や単なる見学よりはるかに強烈なインパクトを与えることができるため、高い教育効果が期待できるとともに、学生のモチベーションを高め、将来地域で活躍する人材を養成する大きなきっかけとなることが期待される。同時に、地域での活動そのものが住民の健康増進と地域の活性化につながるなど、直接の社会的効果も大きい。また、この取組は地域・行政と一体となって、健康教育を通じた地域活性化をはかるモデルケースとして他の地域でも大いに参考になるものである。

(予算規模)

2,000 万円 (平成 18 年度予定)

(実施時期)

平成 18 年 10 月～

(対象学生)

医学専門学群 医学類学生

問い合わせ先

医学教育企画評価室

人間総合科学研究科 助教授 前野 哲博

電話 029-853-3002

平成18年度 現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）  
公募テーマ：実践的総合キャリア教育の推進

### 取組名称 専門教育と融合した全学生へのキャリア支援

このほど採択された現代 GP により、筑波大学は学生のキャリア形成支援に向け、全学を挙げて取組むことにいたしました。この取組は、学生各自が自身の専門と社会との関連を明確にすることや、大学教育が学生自身の人生に与える影響を自覚させることにより、学生自身のキャリア形成を育み、結果として社会人としての自覚の高い人材を育成することを目標にしています。

そのための具体的な施策として、以下を計画しています。

- 1) キャリア教育のための授業を次の形で開設します。
  - ・ 全学生を対象とする総合科目として、「未来の自分—自己発見—」（1年生対象3学期）、「学問と自分」（2年生対象1学期）、「仕事と社会」（2年生対象3学期）を開設します。これらの授業は、学生に大学で学ぶことの意義を認識させることや、様々な職業人のキャリアパスの事例を学び、進路選択に自発的に取組めるようにすること及び職業生活の実情に対する理解を得させるようにします。これらの授業科目はキャリア支援室が開設するものです。
  - ・ 各学類・専門学群がそれぞれの専門分野の社会的意義を学生に理解させるための授業「学問と社会」（2年生対象）を独自に開設します。
- 2) 学生が社会との対話の中で将来の社会参加（就職）と専門学修への意欲を高めるために、インターンシップを推進します。インターンシップの理念や実施体制の全学的共有を目指し、また本年1月に設立した「つくばインターンシップ・コンソーシアム」との連携により、インターン受け入れ企業の開拓、企業の意向の把握、及び学生への啓発活動を行います。
- 3) キャリア教育の成果と専門学修の成果とを学生自身が集約し、自分自身の座標軸を作るために、全学生にキャリアポートフォリオを作成させます。ポートフォリオには、学生自身が学習したことや社会活動から得たものを整理・記入していき、進路相談における教職員との面談や就職活動に用いられるようにします。
- 4) 本学独自のクラス担任制度を活用し、キャリアポートフォリオ作成の指導にあたります。また、クラス担任を中核として全教職員が学生のキャリア形成支援に参加する体制を作ります。
- 5) キャリア教育の理念を共有するため、様々な形で教職員研修を実施していきます。

この取組みの実施や教育効果に対する評価も厳正に行うとともに、対社会的な広報も厳正に行ない、充実したキャリア教育が筑波大学の大きな特徴として広く認知されることを目指します。

(予算規模)

1,800 万円 (平成 18 年度予定)

(実施時期)

平成 18 年 10 月～

(対象学生)

全学生

問い合わせ先

数理物質科学研究科 助教授 南 就 将 (みなみ なりあき)

電話 029-853-4296